

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2023年度 助成者)

作成日 2023年 8月 29日

氏名 (フリガナ)	中村 文美(ナカムラ アヤミ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2023年8月14日(月)～8月19日(土)
大学名	大阪大学
学年	6年次

この度、ハワイ東海インターナショナルカレッジを拠点とする臨床医学英語研修に参加させていただきました。今回の経験を通じて、私自身の英語力やプレゼンテーション能力が飛躍的に向上したように感じる事ができ、大変有意義な一週間となりました。特に印象に残ったのは以下の三点です。

一つ目はやはり **case presentation** です。今回のプログラムに参加するまで日本語での症例発表も数える程度しか経験したことがなく、患者さんに対する問診を自ら行って発表する、しかもそれを英語で行うなんて自分に出来るだろうかと不安を抱いてハワイの地へ向かいました。実際、初日は患者さんに英語で問診することすらおぼつかなく、全ての情報を聞き出すことができず苦労しました。その上、持っている医学知識が貧弱であること、自身が考える疾患の英語名が瞬時に思いつかないこと、鑑別診断を根拠と共に考えることがそもそも慣れていないことといった様々な困難を抱えていることを自覚することとなり、このプログラムについて行くことが出来るだろうかとより一層不安になりました。しかし、初日の夜にルームメイトと話したところ、皆同じような不安を抱えていることを知り少し安心しました。そしてルームメイトと共に医学英単語や問診の取り方、プレゼンテーションの流れなどを夜な夜な復習し合ったことは今となっては良い思い出です。その後、一日約六時間の **case presentation** の特訓を受け続けた結果、いわゆる **common disease** の疾患名は即座に英語で伝えることができるようになり、問診の流れも頂いたプリントを見ることなく滑らかに出来るようになりました。初日はプログラムのレベルの高さに圧倒され不安を抱えていましたが、最終日には自分自身でも成長を感じる事が出来るほどになり、このプログラムに参加して良かったと心の底から思っています。

二つ目は現地の医学生との交流です。アメリカの医学生は他の学部を卒業してから医学部に入学しているため、様々な分野に長けている人ばかりでした。中には部活動として宇宙医学に関する活動をしている学生もいました。私自身、医学以外の分野に何か挑戦しようとは思っていましたがなかなか一歩が踏み出せず二の足を踏んでしまっていました。今回のプログラムを通じて、同世代のアメリカの医学生がどのようなことに興味を持って日々活動しているのか、あるいは医学の勉強に対してどのようなモチベーションで学んでいるのかを知ることができました。そして彼らの医学や他の分野の勉学に熱く取り組んでいるのを見て、私自身もこれからは何事にも挑戦し、可能であれば医学以外の何かで自分自身の強みだと言えるようになりたいと考えるようになりました。

三つ目はアメリカ留学に関する講義です。私自身、将来アメリカで医者として働きたいと考えており今回のプログラムに参加しました。ただ、アメリカにおいてマッチしやすい科や地域、準備しておくべき書類などの細かい内情を日本にいる限りなかなか手に入れることができず困っていました。今回、実際にアメリカで勤務されている先生方と直接お話しする機会を設けていただいたのは人生のこの上ない経験となりました。

今回のプログラムを通じて、海外への志を持つ医学生と将来の夢について語り合うことができ、その上多くの先生方の情熱をもったお話を聞くことができたことで、海外でのキャリアという願望がより一層強くなりました。このような素晴らしいプログラムに参加出来たことに改めて感謝いたします。